



出張報告書

令和 5 年 6 月 26 日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 青雲の会
 代表者氏名 佐野剛志
 出張者氏名 佐野剛志
 波多正文
 岸田光広
 西藤彰子

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和 5 年 5 月 ~~2~~¹⁷ から令和 5 年 5 月 ~~2~~¹⁸ 日まで

2 結果の概要

用務先 佐賀県武雄市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1. ICT利活用教育の推進について 2. 武雄市図書館とこども図書館について 3. 武雄市の防災対策について
添付書類 <input type="checkbox"/> 出張報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備考

3 届出事項の変更等 なし あり (内容は裏面に記載)

旅費の精算

精算額は、令和 5 年 5 月 20 日届け出た額 (197,200 円) と同一額である。

届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

青雲の会会派視察

作成者：西ふじあき子

令和5年5月17日(水)～5月18日(木)

波多正文、岸田光広、佐野剛志、西ふじあき子

佐賀県武雄市 「ICT利活用教育の推進について」「武雄市図書館」と「こども図書館」
「武雄市の防災対策について」

・ 「ICT利活用教育の推進について」

いち早く、2009年に電子黒板を配置、翌年に日本で発売されたばかりのiPadを小学校に40台導入、2014年にAndroidを全小学校、2015年に全中学校に導入、その後Windowsに更新。

教師が一方的に話し、生徒は聞いている授業ではなく、予習をしているためChromeブックを使いこなし、学ぶ姿勢が高い。

「個別最適な学び」から「協働的な学び」

1人で学び、インプットと協働の授業でアウトプットをして、繰り返す授業が行われている。

尼崎市は、2020年に市内小中学生1人1台タブレット端末を導入した。

・ 「武雄市図書館」

TSUTAYAを展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)が指定管理者制度で運営。どちらも入館料は無料、カフェが併設されている。

“スタバがある図書館”として、来館者数の伸び悩みによる、新たな利用者の開拓として若者層や子育て世帯の利用促進やKPI指標を活かした利用者の目線に立ったサービスを提供されている。

民間が入ることによる反対意見もあったそうですが、当時の樋渡啓祐市長の強いリーダーシップで実現。

館内は間仕切りせずに図書ゾーン、スターバックスコーヒー、蔦屋書店があり、文具、雑貨、地元のお土産品等が販売されている。

棚卸しは夜間に行い、開館時間は朝9時～21時、休館日は無し、年中無休。

2階のカウンター席にはコンセントがあり、無料Wi-Fi、飲食オッケーの図書館で利用者の滞在時間が長くなった。

- ・「こども図書館」

武雄市図書館に隣接。

靴を脱ぎ、本を並べた「えほんの山」の階段に座って本が読めたり、子どもがワクワクする秘密基地のような天井が低い小部屋もある。

赤ちゃん、幼児向けの絵本の読み聞かせ講座は毎日開催、学生が話せる多目的スペースを新設、本物を見せる→著名人による(過去に堀江貴文さん、乙武洋匡さん)講演会や講座、イベントは年 1500 回目標、ミニコンサート等を開催している。

こども図書館では 30~40 代の図書貸出利用者数が約 3.5~4 倍になった。

- ・「武雄市の防災対策について」

令和元年 8 月と令和 3 年 8 月に大雨による災害があり、令和元年の時、私以外の 3 人の会派議員は武雄市に視察中で記録的な大雨に遭い、途中で視察を中止して帰ってきた経緯があり、4 年振りに再度視察先を選び、令和 3 年には更に冠水の被害が大きく、令和元年度の教訓を踏まえた対策について学ぶ。

令和 3 年 11 月に治水対策課が新設され、令和 4 年度は治水対策として、緊急時に水を上流域で一時的に「ためる」対策→田んぼダムの整備、ため池の新設、「ながす」→河川の 14 箇所をしゅんせつ、「おくる」→排水ポンプ車 2 台購入。

「特定都市河川」の指定、車両避難所の拡充(市内 20 箇所・最大 5 千台)、消防団(水防団)によるボートでの救助活動については、本市の消防団員数は一千人に満たない中、人口約 4 万 8 千人の武雄市の団員数は 1,310 名。(尼崎市の 10 倍)浸水する可能性がある 3 つのエリアにボートが配置されている。その他、情報伝達手段の拡充・強化の取り組みやポンプ車も見学した。